

令和5年9月28日

保護者様

横浜市立西寺尾小学校

校長 亀田 時雄

令和5年度「全国学力・学習状況調査」西寺尾小学校の結果について

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、令和5年4月18日に小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が集計されました。本校の結果の概要をお知らせいたします。

1 教科に関する調査結果

(1) 平均正答率

項目	国語	算数
西寺尾小学校	72%	67%
神奈川県	66%	63%
全国	67.2%	62.5%

(2) 結果に特徴のある設問

・全国の平均正答率との比較で、特徴が見られた主な設問は、次のとおりです。

国語	
知識及び技能	全国の平均正答率より4ポイント高い
・「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」設問〈問題番号2-三：以下同じ〉が14ポイント高い。 ・「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う」設問〈1-三-(1)-ウ〉が8ポイント低い(★1)。	
思考力、判断力、表現力等	全国の平均正答率より5ポイント高い
・「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」設問〈3-一-(2)〉が11ポイント高い。 ・「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」設問〈1-二〉が5ポイント高い。だが、正答率は31.5%に留まっている(★2)。	

算数	
知識及び技能	全国の平均正答率より6ポイント高い
・「百分率で表された割合について理解している」設問が8ポイント高い〈4-(1)〉。だが、正答率は53.7%に留まっている。 ・「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする」設問〈3-(3)〉が2ポイント低い(★3)。	
思考力、判断力、表現力等	全国の平均正答率より3ポイント高い
・「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを、式や言葉を用いて記述する」設問〈1-(3)〉が11ポイント高い。 ・「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に、面積の大小を理解し、その理由を言葉や数を用いて記述する」設問〈2-(4)〉が2ポイント低い。正答率は18.5%となっている(★4)。	

2 生活習慣・学習習慣に関する調査結果

- ・全国の回答状況と比較して、特徴が見られた問題は、次のとおりです。
- ・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した状況（％）

質問項目	西寺尾小	全国	差
友達関係に満足していますか。	96.3	90.1	△6.2
学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。	1時間以上 66.7	1時間以上 57.1	△9.6
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	100	95.1	△4.9
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。	81.5	77.2	△4.3
授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。	73.3	71.9	△1.4
自分には、よいところがあると思いますか。	62.9	83.5	▼20.6
将来の夢や目標を持っていますか。	64.8	81.5	▼16.7
読書は好きですか。	61.1	71.8	▼10.7
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	68.5	77.4	▼8.9
学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めていますか。	64.8	75.7	▼10.9

3 授業改善に向けて

- ・調査結果から明らかになった、本校で大切にしていきたい授業づくりの視点は、次の通りです。

全体
○国語および算数の調査では、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の設問がいずれも 全国の平均正答率より高い結果となった 。ただし、いくつかの設問では、正答率が全国平均より下回る結果であることや、 全国の平均を上回っていても、正答率自体が60%以下の設問がある ことが見られた。
○生活・学習意識調査では、 学習したことを見直し、次の学習につなげる力がまだ充分でない ことも読み取れる。国語や算数の学習において、分からなかった問題を見直し、 復習を粘り強く進めていくことや、学習を振り返る中で、苦手な問題に今一度、取り組んでみるなど、自ら調整して学習を進めていくことができる ように指導していくことを目指したい。
○また、生活・学習意識調査では、全ての児童がICT機器を活用することが学習の役に立つと肯定的に回答していた。今後は、 学習したことを見直し、次の学習につなげていくにあたって、ICT機器の活用により、自らの学習の広がりや深まりに関連付け、学習をより効果的に進める

ことを実感できるように指導していくことを目指したい。

- 学習調査では、全国の平均正答率を上回っているにも関わらず、生活・学習意識調査で読み取れるように、自己肯定感が低いことが大きな課題である。
- ・「なぜ学ぶのか。」「なぜ学校に行くのか。」「なぜ目標を持って学習したり、生活したりすることが大切なのか。」といった、自分の生き方につながる学習をこれまで以上に進めていく必要がある。5年生までに取り組んできた学級会での話し合い活動は、児童にとって効果的であることが読み取れるため、特別活動と各教科での学習を意図的に関連付けて指導していきたい。

国語

- ★1で、漢字を文の中で正しく使うためには、漢字の書き取りの反復練習ではなく、一つひとつの漢字の意味や成り立ちを丁寧に学んでいく必要がある。また、生活・学習意識調査にも見られるように、読書が好きな児童が少ないため、本に親しむ環境づくりを進めていき、読書を通じて漢字を知り、国語の学習に関連付けていくようにしたい。
- ★2で、自分の考えが伝わる文章にするには、相手にとってよく理解できるようにする必要がある。そのためには、図表やグラフ、インタビュー結果等の根拠となる情報を収集し、整理したうえで提示することが求められる。この力は、総合的な学習の時間での探究的な学習にもつながるものである。今後は、国語科と総合的な学習の時間を、教育課程上でより一層、関連付けて行い、相手意識や目的意識を明確にした授業づくりを進めていくようにしたい。

算数

- ★3で、順序にしたがって計算するには、計算のきまりや性質について理解し、計算に習熟したり、計算を工夫したりする必要がある。基礎的な計算練習を繰り返すのではなく、日常の授業の中で、日常生活に見られる計算場面を課題として設定し、より正確に、より簡単に、より素早く計算するための方法を考える時間をつくることで、自分の生活と学習を効果的に関連付けた授業づくりを進めていきたい。
- ★4で、基本的な図形の内容を理解するためには、図形を構成する要素に着目して考察していくことが必要である。例えば、三角形の面積の場合、着目する要素は、底辺と高さの2つである。これらの要素に着目するためには、計算を行う場面において、本問題のテープに見られるように、日常生活の様々な場面から底辺や高さにあたる部分を自ら発見し、説明していく力が求められる。そのためには、日頃の授業の中で、他者の考えに触れ、協働的に学び合う場面を設定することで、自分の考えを広げたり深めたりするようにしていきたい。

※「令和5年度全国学力・学習状況調査」の調査問題や正答例などは、国立教育政策研究所のホームページ (<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>) に記載されています。

